

1. 開催日時: 令和8年3月2日(月) 10:00~12:00 (オンライン開催)

2. 主な議論

(1) ユネスコ科学分野における国際的な動向と今後の取組

ユネスコ総会等における科学分野の動向について報告の後、以下順次報告・意見交換。

①政府間海洋学委員会(IOC)

IOC 議長を務める道田委員から、IOC に関する国際動向、「国連海洋科学の 10 年」に関する国内外の動向、今後の主な予定(IOC 執行理事会、島しょ国海洋サミット)について報告。

②政府間水文学計画(IHP)

沖委員長/IHP 分科会主査から、IHP に関する国際動向、ICHARM(水災害・リスクマネジメント国際センター)や大学による取組、今後の主な予定(IHP 理事会等)について報告。

③人間と生物圏(MAB)計画

MAB 計画に関する国際動向(生物圏保存地域(ユネスコエコパーク)世界会議等)、国内の取組、今後の主な予定について、渡邊委員欠席につき事務局から報告。

④ユネスコ世界ジオパーク

菅原委員から、ユネスコ世界ジオパークに関する国際的な動向、日本ジオパーク委員会の開催概要、日本ジオパーク全国大会ほか国内の取組、今後の主な予定について報告。

⑤その他の科学分野

昨年 11 月のユネスコ総会におけるニューロテクノロジーの倫理に関する勧告の採択や、政府間生命倫理委員会に関する動向等について事務局から報告。

⑥事務局提案のユネスコ科学分野における分野横断的な今後の取組を受けて、意見交換を行った。国際情勢が困難な中で、科学分野・科学者間での連携の重要性が高まっており、網羅的に科学の取組を進めるユネスコの重要性を積極的に発信してはどうか。また、科学的な視点で捉えると、サイバー空間や宇宙も今後対象分野になるのではないかと。さらに、官民連携を検討する際には、企業からの寄付だけではなく、社会的資金の活用も、ユネスコ活動の裾野の拡大のためにも期待できるのではないかとといった意見が出された。

(2)ユネスコ科学分野における民間ユネスコ活動

世界自然遺産知床、山陰海岸ユネスコ世界ジオパークなど各地の民間ユネスコ活動について、地域ユネスコ協会の各委員から発表があった後、意見交換を行った。産学官の連携によるSDGs への期待が示されるとともに、ユネスコの科学分野での議論や方向性等、全体的な視点を踏まえ、地域での取組を進めることが不可欠との意見が出された。

(3)日本のユネスコ加盟 75 周年について

ユネスコ加盟 75 周年記念プロジェクトとして、特設サイト・記念ロゴマーク・記念ポスター等を作成したこと及び記念フォーラムや記念動画を準備中であることについて報告。

3. 配付資料: https://www.mext.go.jp/unesco/002/006/002/003/shiryo/1416775_00020.htm

以上

第 15 回日本ユネスコ国内委員会文化・コミュニケーション小委員会の報告

1. 開催日時: 令和8年2月20日(金) 14:00~15:30 (オンライン開催)

2. 主な議論

(1) 最近のユネスコ関係の動き(文化・コミュニケーション分野)

第 222 回執行委員会では、持続可能な開発のための創造的経済国際年に基づく統合データ収集・分析プロセスや MONDIACULT2025 等について議論されたことを報告。このうち MONDIACULT 2025 について、矢野文部科学審議官よりスピーチを行ったほか、成果文書がとりまとめられたことを報告。第 43 回ユネスコ総会では、増子文部科学事務次官による一般政策演説を実施したこと、新事務局長としてハーリド・エルアナーニー氏が任命されたことを報告。

(2) 世界の記憶

「世界の記憶」国際登録 2026-2027 サイクルでは、我が国から「観世宗家伝来 世阿弥能楽論『風姿花伝』」を新たに推薦したことを報告。また、「世界の記憶」に推薦する案件としてふさわしい記録物について、「暫定一覧表」として整理することを目的として「世界の記憶」国内案件に関する審査委員会の下に「世界の記憶」暫定一覧表検討ワーキンググループを設置したことについて報告。

(3) ユネスコ無形文化遺産

令和7年度のユネスコ無形文化遺産への提案案件について、新規提案として「神楽」及び「温泉文化」を、拡張提案として「山・鉾・屋台行事」、「風流踊」、「伝統建築工匠の技: 木造建造物を受け継ぐための伝統技術」を決定したことを報告。また、我が国より拡張提案を行った3案件がユネスコ無形文化遺産代表一覧表への「登録」が決定されたことを報告。特に無形文化遺産の他国における登録の傾向や国内における保護の枠組、登録に向けた今後の戦略等について質疑が行われた。

(4) ユネスコ創造都市ネットワーク(UCCN)

我が国からクラフト&フォークアート分野で申請を行っていた越前市(福井県)の加盟認定を報告。また、山形で開催されたユネスコ創造都市ネットワーク会議・創造都市ネットワーク日本国際ネットワーク部会の合同開催のほか、UCCN加盟検討中の都市に対する国による伴走型支援の実施、UCCNと観光の関係についても報告。UCCNとCCNJの連携等について議論された。

(5) その他

ユネスコ加盟 75 周年記念プロジェクトについて、特設サイト・記念ロゴマーク・記念ポスターを作製したこと及び記念フォーラムや記念動画を準備中であることについて報告。また、地域ユネスコ協会より発表があり、ユネスコ活動の更なる普及に向けた国内委員同士の連携強化等について提案があった。

3. 配付資料: https://www.mext.go.jp/unesco/002/006/002/004/shiryo/1416641_00014.htm

以上

第 157 回日本ユネスコ国内委員会教育小委員会の報告

1. 開催日時: 令和8年2月13日(金) 15:00~17:00 (オンライン開催)

2. 主な議論

(1) ユネスコにおける最近の教育分野の動向と今後の取組

第 222 回ユネスコ執行委員会及び第 43 回ユネスコ総会、ユネスコ/日本 ESD 賞の授賞式、日本の拠出金事業の状況等について報告。このうち、第 222 回執行委員会では、日本から日本ユネスコ協会連盟が東南アジアで展開する「世界寺子屋運動」を紹介したこと、第 43 回総会では、「教員の地位に関する勧告」の改訂の 2027 年採択に向けた作業スケジュールが示されたことについて報告。

各委員からは、日本による ESD の推進が国際的に高く評価されていることを踏まえ、力強い国際的貢献を続けるべきとの意見があった。また、日本の ODA を通じた教育支援を、ユネスコ場裏での SDG4 への貢献と一体的に発信すべきとの意見もあった。

(2) 国内のユネスコ関連教育事業の動向と今後の取組

ユネスコスクール全国大会、地方セミナーの実施状況、2023 年ユネスコ教育勧告や ESD の国内普及状況、ユネスコ加盟 75 周年を記念したポスター作成等について報告。また、世界遺産・エコパーク・ジオパーク等を教育資源として活用するための、既存の教材や好事例を集約するポータルサイトの整備の方針が示された。

続く事例発表では、企業との連携による減災教育、世界遺産を活用した探究学習、ジオパークを活用した教育実践、次期学習指導要領改訂と ESD や 2023 年ユネスコ教育勧告の関連性に関する説明が行われた。

各委員からは、ユネスコスクール全国大会で発表された国内の多様な ESD 実践と 2023 年ユネスコ教育勧告を結びつけた学びを国内外へ積極的に発信する重要性が指摘された。また、教育勧告の国内普及方策に関する質問や、勧告の指導原則は次期学習指導要領の基本的な考え方(主体的・対話的で深い学び、多様性の包摂、実現可能性の確保)と整合的であり、国際動向を踏まえて国内政策を検討することが重要との意見があった。これらに対し事務局は、政策について議論しつつ、現在進めている研修会や教材開発等を通じて普及啓発を進めていくと説明した。また、ユネスコ関連事業の可視化の重要性についても指摘があった。

(3) その他

ユネスコ加盟 75 周年記念プロジェクトとして、特設サイト・記念ロゴマーク・記念ポスター等を作成したこと及び記念フォーラムや記念動画を準備中であることについて報告。

各委員からは、75 周年を契機に、ユネスコ活動の分かりやすい情報発信の強化が重要であり、委員も周知に協力することが重要との意見があった。

3. 配付資料: https://www.mext.go.jp/unesco/002/006/002/001/shiryo/1414099_00026.htm

以上